

成蹊

中学・高等学校

SCHOOLGUIDE 2022

校歌

志田義秀 作詞
信時 潔 作曲

土の育くむ 武蔵原野の林

空を限りて 秩父連峰走る

聞けよ吾等が 心力歌の生命

この地この歌 吾等讀えん

その名 おお成蹊

昨日の吾を 超えし輝き尊し

吾が野に萌ゆる 草の語るに

聞かずや

白光の空 高くそそる筑波と

共に向上の 吾等の姿

その名 おお成蹊

宇は大なり 母校成蹊の宇

一つに集う 族吾等の園の

愛の象徴 井の頭の泉よ

陽は野の上に 吾等の上に

その名 おお成蹊



成蹊中学・高等学校

<https://www.seikei.ac.jp/jsh/>

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-10-13

TEL 0422-37-3818 FAX 0422-37-3863 E-mail chuko@jim.seikei.ac.jp



成蹊は、 人を創る

成蹊での学びから

「0 to 1」の発想を持つ人材に

成蹊学園には、創立者中村春二先生の「知育偏重では無く、人格、学問、心身にバランスが取れた人間教育を実践したい」という精神が今でも流れています。この教育を達成するため、1912年の創立以来、「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」という建学の精神を尊重し、伝統として受け継いできました。その上で、「グローバルに認知される教養と個性」「協調性のある自立精神と自律的行動」「知的好奇心と科学的探究心」を教育ビジョンとして掲げ、解答の無い社会であっても、新たなものを創造する「0 to 1」の発想を持つ人材の育成をめざしています。

これからの未来においては、偏差値といった数値で見える能力だけではなく、「発信力」や「コミュニケーション力」といった非認知能力の育成が欠かせません。また、さらに進んでいくグローバル社会においては、日本の伝統を胸に、世界に眼を向けることが重要となります。そのために、本校が大事にする「個性の尊重」は、自己の個性を磨くとともに、他者の個性も理解し尊重する「共感力（エンパシー）」を育て、異文化理解を進めています。

そして、生徒一人ひとり個性を伸ばす中、人間性も育成するためには、品格と教養をバランスよく備えることも重要です。本校では、幅広い教養を持たせるリベラルアーツを重視し、生徒一人ひとりが「琴線に触れる」学びを実践することにより、「品性の陶冶」を培っていきます。

しかし、より「琴線に触れる」学びには、机上の学びだけではなく、本物に触れることが大切です。本校では、実際に体験する活動を重視し、それを実社会に結びつける教育を実践しています。このような「勤労の実践」は、働くことを厭わず、思いやりを持って社会に貢献する姿勢を育んでいきます。

中学・高校の6年間は、生徒たちの人生にとって「人を創る」大事な時期です。この成蹊中学・高等学校では、そのかけがえない時期に、多様な個性を持った友達や教員と出会い、さまざまな体験や幅広い学びを通して、共に考え、悩み、感動することができます。緑濃き武蔵野が残るこのキャンパスで、是非とも一緒に学びたい気持ちを持った生徒との出会いを、私たちは心から楽しみにしています。



校長 仙田 直人

人を創る**学**びが、 知性と個性を育む。

100年を超える歴史を持つ成蹊の中高一貫教育は、生徒の発達に応じたきめ細かな教育指導が特徴です。多様な個性との交わりの中で、学力だけでなく真摯な生き方と確かな人間性を磨いていくのです。



大野 暁彦さん
(小～高2003年卒)

千葉大学大学院修了
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 専任講師
SfG landscape architects 代表

大学教員をしながら設計士をしている私の人生に大きく関わったのは、成蹊のカリキュラムです。社会・理科のすべての科目を教わったことで、専門分野に限らない幅広い教養を持ってました。受験のための学びではなく、人生に役立つ学びができたことは、さまざまな立場の方と会う今の仕事にとても役立っていると感じています。



野本 遼平さん
(中～高2004年卒)

東京大学大学院修了
IT系企業勤務
弁護士

弁護士ながら経営にも参画するという特殊なキャリアを選ぶ後押しをしてくれたのは、部長として打ち込んでいた柔道部の活動でした。当時、巴投げという奇襲技が得意でちょっと天邪鬼な私の性格を受け入れ、否定することなく伸ばしてくれた成蹊。この学び舎で築いた人間関係は、一生の資産だと思っています。



人を創る**環**境が、 人間性を深める。

大学教員による模擬授業などのワンキャンパスのメリット、質の高い体験授業を支える施設、武蔵野の面影を残す豊かな自然。恵まれた環境で過ごす6年間で、自ら成長する力を養います。



井上 璃子さん
(中～高2012年卒)

東京大学大学院
医学系研究科在学

どんなときも寄り添ってくださった成蹊の先生や仲間たち、人との絆の築き方を教えてくれた部活、それらは今でも私の財産です。都内とは思えないほどの豊かな自然と充実した学習設備はもちろん、成蹊には、卒業してからも温かく迎えてくれる素晴らしい環境が整っています。



恵 雄太さん
(中～高2011年卒)

立教大学卒
株式会社博報堂勤務

成蹊には、「自由」だからこそ「自律」が育まれる環境があります。所属していた野球部では、始業前の自主練ができるよう先生に交渉し練習に打ち込み、満足のいく成績を収めることができました。与えられたことをこなすだけでなく、結果を得るために自ら考え、行動する力の大切さを学べたことにとっても感謝しています。

人を創る**伝**統が、 心の豊かさを養う。

変わることのない教育理念をはじめ、私たちが受け継いでいる伝統は100年を超える歴史の中で先人たちが守り、築き上げてきたものです。生徒たちは、伝統に学びながら新たな伝統を紡ぎ、育っていきます。



新井 智之さん
(中～高2008年卒)

山形大学医学部医学科卒
都立広尾病院 勤務

多くの友人たちとさまざまな経験をする中で、たくさん刺激を受け、現在の職業を意識するようになりました。気持ちを落ち着かせるために毎日行っていた凝念は卒業後も役立っており、また、成蹊の名の由来である「桃李不言 下自成蹊」の教えは、日々医療スタッフと連携しリーダーシップを発揮しなければならない医師という仕事に活かされています。



河原 茉莉さん
(小～高2001年卒)

成蹊大学卒
ストラスブール大学法学部修士課程修了
外務省 在ジュネーブ領事事務所勤務

個性を尊重する成蹊教育は、興味や関心を持ったことを大切に、萎縮せずチャレンジするという私の性格形成に影響を与えました。実際に体験することで生徒の興味を引き出す多彩な授業や行事が、さまざまな角度から物事を見て自ら考える力を伸ばしてくれました。これは既存の価値観にとらわれず、情報を正しく見極めることが必要なこれからの時代を担う人材を育むものだと思います。



創立者 中村春二の 情熱が息づく成蹊の教育

成蹊学園の創立者 中村春二は、明治末期の日本教育が個性を無視した画一教育に陥っていることを深く憂えていました。そこで「知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスの取れた人間教育を実践したい」と、1912(明治45)年に成蹊実務学校を創立。「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」という建学の精神を柱とした成蹊教育は、その使命を見失っていた当時の教育への鋭い警鐘となりました。

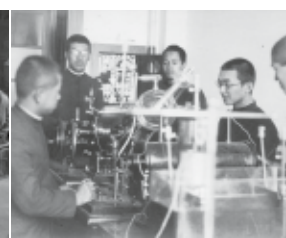
そのような理念の中に込められた中村春二の情熱は、時代がどのように変遷しようとも決して変わらないものであり、今日まで着実な歩みを進めてきた本校に今も脈々と息づいています。



中村春二



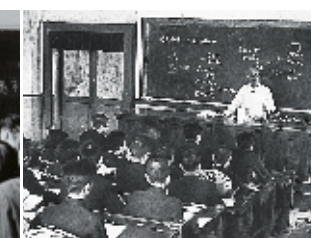
実務学校開校当初の授業風景



旧制高等学校物理の授業風景



新制中学校歴史の授業風景



理化館での授業風景

建学の精神 時代を超えて変わることなく受け継がれる精神

▶ 個性の尊重

自らの個性を伸ばすことはもちろん、皆が互いに思いやり、それぞれが持っている個性を認め合うこと。これは異なる文化や習慣を理解し、尊重することにも通じ、グローバル社会におけるコミュニケーションには欠かすことのできないものです。

▶ 品性の陶冶

多くの仲間と触れ合い、切磋琢磨しながら自らを高め、品格と教養をバランスよく備えた優れた人格の育成を意味しています。中村春二は「心を育てる教育」として、良いものを鑑賞すること、自然と親しむこと、科学を研究することなどを特に奨励しました。

▶ 勤労の実践

机上の学びには限りがあり、実際に体験し、本物に触れることが重要なことはいまでもありません。人のために働くことを厭わず、自らに置き換えて動くことができて初めて、誇りを持って社会の発展に貢献できる人になり得るのです。



校名・校章の由来

「桃李不言下自成蹊」

桃李ものいはざれども、下おのづから蹊を成す

「成蹊」という名は、この言葉に由来しています。桃や李(すもも)は何も言わないけれど、美しい花を咲かせ、おいしい果実を実らせませす。すると、それにひかれて人が集まり、樹木の下には自然と蹊(こみち)ができる。桃や李は、人格のある人のたとえで、つまり、そういう徳のある人には、その徳を慕って人々が集まってくる、ということです。これは、中国に古くから伝えられたことわざを、「史記」の作者である司馬遷が、李廣の人物を賛えるために引用したことから有名になったものです。



成蹊の字を葉のついた桃の実の上に配した校章は、中村春二自らが考案したものです。時代とともに少しずつ形を変えてきましたが、「桃李不言下自成蹊」の精神を表したシンボルとして親しまれ続けています。

凝念

授業の前に集中力を高め、 気構えを養う伝統の精神集中法

手を組み、目を閉じ、呼吸を整え、精神を集中する。中村春二が教育に取り入れた独自の精神集中法が「凝念」です。ここには、「精神を集中させ、それを持続する習慣を養うことは教育の徹底に不可欠である」という創立者の教育理念が継承されています。現在では中高ともに朝礼で行われており心を落ち着かせ、授業への集中力を高めます。



沿革

1906年 (明治39年)	1912年 (明治45年)	1914年 (大正3年)	1915年 (大正4年)	1917年 (大正6年)	1924年 (大正13年)	1925年 (大正14年)	1926年 (昭和元年)	1947年 (昭和22年)	1948年 (昭和23年)	1949年 (昭和24年)	1951年 (昭和26年)	1962年 (昭和37年)	1964年 (昭和39年)	1970年 (昭和45年)	2003年 (平成15年)	2004年 (平成16年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2012年 (平成24年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)		
・翌年、「成蹊園」と命名	・中村春一 自宅に学生塾を開塾		・成蹊中学校開校	・成蹊小学校開校	・成蹊実業専門学校開校 ・成蹊女学校開校	・池袋から吉祥寺に校舎移転 ・中村春一 死去	・学園本館完成 ・旧制 成蹊高等学校(7年制)開校	・高等学校教諭加藤藤吉の生徒指導により気象観測法に準拠した正式観測開始(1959年「成蹊気象観測所」設置)	・新制 成蹊中学校開校	・新制 成蹊高等学校開校	・セントポールズ校(アメリカ)への留学開始 ・成蹊大学開学	・中学校 現在地移転	・高等学校 現在地移転	・小学校・中学校 海外帰国生教育を目的とする「国際特別学級」設置	・カウラ高校(オーストラリア)との交換留学を開始	・カウラ高校短期留学を開始	・「成蹊学園 国際教育センター」設置	・ケンブリッジ大学(イギリス)短期留学を開始	・中学校 1クラスの少人数化実施	・学園創立100周年	・成蹊中学校創立100周年	・短期留学を開始 ・カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)	・チャート・ローズマリー・ホール校(アメリカ)サマースクール派遣を開始	・チャート・ローズマリー・ホール校(アメリカ)長期留学を開始	・ルンステッド高校(デンマーク)、カルマール国際高校(スウェーデン)短期留学を開始	・成蹊学園サステナビリティ教育研究センター設置	・学園 「ユネスコスクール」に認定



中学ホームルーム棟

優しい木の質感を活かした、温もりあふれる校舎です。



高校ホームルーム棟

目標を定めて前進するイメージを強調したシャープなインテリアです。

成蹊の中高一貫教育

成蹊中高の教育には、旧制七年制高等学校創立以来の歴史と伝統があります。
生徒の発育・成長に合わせたカリキュラムと生徒一人ひとりに寄り添う生活指導により、
生徒が自らの才能を自覚し、伸ばしていけるようサポートしています。
生徒は6年間を通して学ぶことの楽しさを知り、自学自習でさらに成長していきます。

個性と多様性の 尊重

グローバル化する社会の中で、互いの個性を認め合い、多様な価値観を尊重する人材を育成

根底からの 学び

文化・科学の根底から学ぶ偏りのない授業カリキュラムのもと、自らの興味・関心を発見するプロセスを提供

多彩な進学先

それぞれが希望する進路に対応するカリキュラムに加え、卒業生の協力を得たさまざまな進路企画行事が組み合わせられ、多彩な進路を実現

中学校のカリキュラム

まず、成蹊生としての学習習慣、生活習慣を身につけます。



スケジュール管理帳『日進月歩』

英語では「聞く・話す・読む・書く」の4技能を学びます。



少人数による英語の授業

体験・観察重視の授業を通して、「考える力」を習得します。



生物の観察実験

芸術教育に力を注ぎ、豊かな感性と創造力を養います。



特別教室棟での書道の授業



中Iでは、1クラス36名で個性と協調性を培います。



授業中のプレゼンテーション



気象観測実習



音楽のギター練習

高校のカリキュラム

1年

共通カリキュラムを通して、自らの資質や関心を見出す力を身につけます。



共通カリキュラム

進級するにつれて選択カリキュラムが増えていきます。

英語はグレード別に2段階に分けた授業を行います。

数学は高校からの入学生と内部進学生でクラスを分けて授業を行います。

芸術必修選択
(音楽、美術、工芸、書道)

2年

文系・理系のいずれかを選択し、進路を具体化します。



理系 コース

文系 コース

選択演習 (数学・英語・芸術など)

英語と数学については、グレード別に3段階に分けた授業を行い、それぞれのレベルアップを図ります。

3年

文系・理系の進路に合わせた18のコースを設定。全授業の約半分をコースごとに行います。



理系 10コース

文系 8コース

選択演習 (数学・英語・芸術など)

自由選択の演習など、めざす進路に向けた学習環境を確保し、きめ細かく高度な授業で一人ひとりの能力を伸ばします。



【科目紹介】

国語



多くの文章に触れ、考えること。それは他者の考えを理解し、ひいては自らの考えを形成することにつながります。

自身が関心を持って作品と向き合うことは必ず何らかの気づきをもたらし、新しい世界を広げていくことでしょう。

国語／現代文

考える力を育む

多くの文章を読み、他者の意見を聞くことで新しい視点を獲得し、自身の考えを深めていくことを大切にしています。

考えを表現する経験を積み重ねることで、思考の柱を形成します。

古典

慣れ親しみ、深い理解へ

中学ではオリジナルテキストを用いて代表的な古典作品に慣れ親しみ、高校ではより詳細な読解を行います。

作品の面白さに触れることで興味を持って読み解くことをめざします。

作文

自分の言葉で表現する

中学では独立した授業として取り組み、高校でも現代文の授業を通して作品を解釈し、文章にすることで力を伸ばします。

自身の考えを他者に理解してもらうために必要な力を養います。



英語 (外国語)



成蹊には帰国生や留学生、また外国人数員も多く、生徒それぞれの多様な学習経験、進路に応じた指導を行っています。

中1は英語学習経験によりホームルームを2分割した少人数クラス、中2・3はホームルーム単位で勉強します。中1国際学級の生徒と一般学級の帰国生は、中2・3では「帰国生英語特設クラス」で勉強できます。

高1は2グレード、高2・3は3グレードの習熟度に分かれた授業となります。

中学

4つの基本技能をバランスよく

英語学習導入期には「音」を大切に、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学習しながら基礎を固めます。中1から多読にも挑戦します。

外国人数員による授業が中1・2では週1回、中3では週2回あります。

高校

学んだ英語を積極的に使う

普段の授業や外国人数員が参加する授業でも(高1・2)、英語使用を意識、実践する学習を進めています。高2では帰国生向け英語、基礎英会話、第二外国語も選択できます。大学入試に向けては文理問わず重要科目であることを踏まえて指導します。

数学



数学は、現代の私たちの生活を支える自然科学や経済学などの基礎となる教科です。

数学を学ぶ目的は、計算の技術を身につけるだけではなく、問題を考えるときにいろいろと試行錯誤をしたり、解答の方針や段取りを考えたりしながら構想力を磨くことにあります。それは大学入試に対応するためだけではなく、将来さまざまな仕事をする上でも役に立つ貴重な力であると考えています。

独自のプリントを多用し学習

数学の本質を理解するために、中学では中高一貫テキストを使用し、高校でも説明や問題のプリントを数多く使って理解を深めます。



社会



中高6年間の地理、歴史、公民の各科目での学びを通して、人や社会の仕組みを理解する力と、現代社会の中で守るべき価値観を身につけていきます。

各教員が自らの専門性を活かしたオリジナリティあふれる授業を展開しています。同時に高校卒業後の多様な進路に対応するための、論理展開力や問題処理能力を高める工夫をしています。

地理

現実の社会と社会科学習を結びつける

地域社会や国際社会の出来事を学びながら、社会の仕組みを理解するための考察へとつなげます。

歴史

事象の原因やつながりを的確にとらえる

現在との対話につながるように歴史を学びます。今ある「私たちの社会」がどのように今ある日本、世界になってきたのかを考察します。

公民

社会と人間を学び生きる力を身につける

平和で民主的な社会を主体的に形成していく上で必要な思考力を身につけること、現代の具体的な課題についても原理的・理念的にとらえ直す力をつけることをめざします。

【 科目紹介 】

理科



論理的かつ実証性を持って物事を考える力を育みます。本校では、各教科における実験・観察を重視することで、生徒たちの知的好奇心や科学的探究心が大きく芽生えていきます。

物理

実験・実習で実証的に学ぶ

充実した機材を備えた理科館で、教員と実験実習助手の指導のもと、難易度の高い実験や実習も取り入れて学習を進めます。

化学

高校では進路に合わせて、より深く学習

中学から連続した体系的な知識を習得します。また高校では理系・医歯薬系大学の受験にも対応できる内容を学びます。

生物

学園内外の自然から学ぶ

緑豊かな校内の動植物に触れながら、実践的な授業を展開。高2では生徒全員が遺伝の実習に取り組み、自然科学の基礎を身につけます。

地学

好奇心に応える専門性の高さ

中学から専門の教員による授業を展開。パソコンを使った実習も行います。また、生徒自身による気象観測は、長い歴史を誇ります。

芸術



楽器を演奏する、絵を描く、文字を書く、物をつくるといった行為を通して、「自分を表現する」こと、見る・聴く・触れるなど「本物を鑑賞する」ことを重視し、物事の本質をとらえる力を養います。

書道

人間性を高めるために「書く」

書道を「書写」ではなく自己表現のひとつとしてとらえ、中国の古典に触れ、さまざまな表現技術を駆使し、「文字」を造形する楽しさを体験します。

美術

絵画、版画、彫塑、デザインなどで表現力を体得

さまざまな制作を通して、創造力を高めます。高校の美術では油彩のほか、日本画、彫塑、版画などにより表現の幅がぐんと広がります。

技術・工芸デザイン

形の把握、技術の習得、工夫する喜び

多彩な手道具や機械類が揃った造形館で自ら製図・設計をし、基本から制作までを学びます。

音楽

演奏する喜びを仲間と共有

中学ではギター演奏、高校ではパソコンでの創作など、さまざまな手法を通じて表現する気持ちを引き出します。

保健体育



心身の健全な発達と、生涯スポーツに関わり楽しむ姿勢を育てることを目標としています。多種目にわたる運動の実践を通して総合的な運動能力の向上を図り、主体性や協調性、そして責任感を育てます。



家庭



創意工夫を凝らした実践の喜びを体験しながら、実践力を育成します。また将来に関わる大きなテーマについて家庭科の視点でとらえ、考える力を養います。



情報



情報社会で生きるため、情報技術を科学的に学習し、情報機器の利用法を習得します。また、技術だけでなく、世の中にあふれる情報から必要なものを選択し活用する能力や、情報社会の抱える問題を法律や制度でどう改善するかを考える力を身につけます。



グローバルに活躍する人材を育む、 成蹊の国際理解教育

成蹊では1935(昭和10)年に全国に先がけ、帰国生を受け入れるための国際学級を設立しました。現在でも、国際学級・帰国生入試などでさまざまな文化を背負って帰国する生徒を受け入れています。受け入れる留学生の存在は、海外に出たことのない生徒にとっても有形無形の異文化体験となっています。ネイティブスピーカーによる語学の授業から異文化への理解を深めるだけでなく、現代社会、政治経済、日本史、世界史などの科目を通じて、国際社会を理解するために必要な近現代史の教育にも力を注いでいます。さらに、留学制度や国際理解プログラムが充実しているのも本校の大きな特徴です。成蹊では、日ごろから多くの科目を通じて国際感覚を養い、真の国際人の育成をめざしています。



留学体験をした先輩の声

文化の違いに驚き、さまざまな経験を吸収できたカウラ高校での時間。

岩崎 元嗣さん
オーストラリア カウラ高校に夏期短期留学



留学初日から成蹊生1人につきカウラ生1人がバディにつき、同じクラスで授業を受け、休み時間や昼食の時間も一緒に過ごしました。
授業の受け方は日本と大きく異なり、先生が教室を持ち、生徒が教科ごとに自分のレベルのクラスを訪問するという方式。また、教科書は学校の持ち物で、毎年次の学年に受け継いで使用するという点にも驚きました。カウラ高校の授業はスクリーンを使った“見て学ぶ”ものが多く、先生と生徒が授業中に討論するのが当たり前で、双方が納得するまで何度も話し合っている姿が印象的でした。
毎週水曜日は各自が好きな種目を行う「スポーツデー」で、設備の関係で学校では行うことのできないゴルフやラグビーといったスポーツは、バスで移動して公園で行うなど、とても新鮮な体験ができました。

多彩な留学プログラム

世界に目を向け、積極的に海外を体験

成蹊では教養と個性を備え、協調性を持ちながら自己開拓できる人材を育成するため、早い時期から世界に目を向けた教育を実施してきました。成蹊ならではの留学制度の充実もそのひとつです。アメリカのセントポールズ校とは1949年から、オーストラリアのカウラ高校とは1970年から交換留学を実施。奨学金付きなど、成蹊独自の長期・短期プログラムが充実しています。
※最新のプログラムについてはHPをご確認ください。

アメリカ

セントポールズ校
卒業生の目覚ましい活躍
アメリカ屈指の全寮制私立高校のひとつ。卒業生はハーバード大学、イエール大学などの名門大学に進学し、世界的に活躍しています。



カリフォルニア大学デービス校
英語でのプレゼンテーション力もアップ
「英語とキャリア教育」を中心に学び、英語でのプレゼンテーション力も鍛えます。



チョート・ローズマリー・ホール校
ハイレベルなサマースクール
アメリカの有名私立高校のひとつ。サマースクールへの派遣と、長期留学生の派遣を行っています。



フィリップス・エクセター・アカデミー校
2016年から相互交流
フィリップス・エクセター・アカデミー校で日本語を学ぶ生徒のサマープログラムと学期生を受け入れ、本校からも同校のサマープログラムに奨学生を送っています。



成蹊が紹介するサマープログラム

イーグルブルック校(アメリカ)
中学生向けのグローバル・リーダーシッププログラム
アメリカのテン・スクールズに多くの卒業生を輩出する中学校のサマースクールです。中学2・3年の生徒が参加可能です。



オーストラリア

カウラ高校
ホームステイプログラムも充実
オーストラリア国内でも歴史のある協定留学制度。長期・短期の留学生はホームステイをして、オーストラリアの生活を肌で感じます。



イギリス

ケンブリッジ大学
成蹊高校のための独自のプログラム
ケンブリッジ大学のベンプルックカレッジが提供するサマープログラム。世界屈指の名門校で、英語やイギリスの社会、文化を学びます。



デンマーク・スウェーデン

ルンステッド高校(デンマーク)・カルマーレ国際高校(スウェーデン)
北欧の高校生が成蹊生と机を並べて学習
両校とも日本語コースのある私立学校で、成蹊独自の交流校です。ホストファミリープログラムでの受け入れと、夏期派遣を行っています。



国内における国際教育プログラム

イングリッシュ・シャワープログラム
中1の希望者を対象とした、2日間にわたり英語漬けの生活を体験するプログラムです。日本とイギリスの学校、文化や表現の違いなどを学びます。



エンパワーメントプログラム
外国人ファシリテーターのもと、アメリカの大学生・大学院生を含む5～6名のグループに分かれ、自らの夢について英語で発表します。



こちらでもご紹介



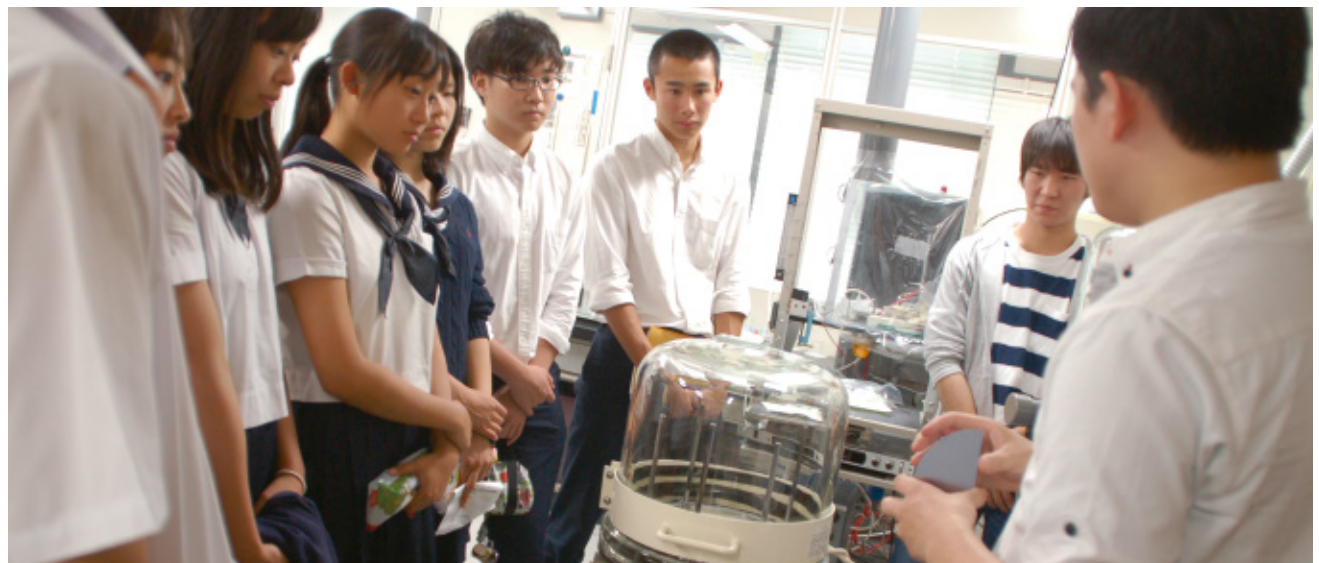
進学ガイド

Web



自分を見つめ、自ら進路を選択できる力を育む

一人ひとりが、自分の将来について真摯に考え、自身で進路を選択し、目標を実現していく。そのためには、「本物に触れる授業」を通じて幅広い教養を身につけ、各自の知的好奇心や科学的探究心を刺激していくことが、何よりも重要だと考えています。ワンキャンパスの利点を活かした成蹊大学教員による講演会や模擬授業、理工学部の実験室見学会とともに、医歯薬・芸術分野を含む多方面で活躍する卒業生の協力を得た、進路・進学についての講演会や相談会、企業見学なども実施しています。



成蹊大学との連携(高大連携)
ワンキャンパスという利点を活かし、研究室見学会や講演会を実施。高校3年では大学の正規の授業を受講でき、成蹊大学進学後は単位認定される制度もあります。



成蹊大学ゼミ体験(中大連携:中3年)
ワンキャンパスという環境を活かし、各分野の最先端の学問に触れる大学の学びを中学生のうちから体験することで、自らの将来や進路を考える機会としています。



卒業生の話聞く会(中3、高1・2年)
各方面で活躍する社会人および現役大学生の卒業生を招いて話を聞き、自分の進路について具体的なイメージを広げる機会としています。



大学教員による模擬授業
さまざまな大学の先生方を招いて18〜20講座の模擬授業を実施し、志望学部・学科を考える機会にしています。



上級TOEFL講座、SAT、アカデミックスキル講座
海外での授業の受講や進学をめざす生徒向けに、上級TOEFL、SAT、アカデミックスキル講座を実施しています。アメリカ人のアカデミック・アドバイザーが担当し、指導しています。



探究学習
協力企業との共同ワークで主体的な学びや表現する力、協働する力を高めるプログラムです。希望者を募り、商品デザインなどの課題に携わります。



自習室
高校生が自由に使える自習室。このほかに進路相談室、図書室、職員室などにも自習スペースがあります。

進学について

外部大学への進学

近年、約70%の生徒が成蹊大学以外の大学への進学をめざしています。成蹊高校での学習内容は、大学受験にも十分対応しています。本校では一人ひとりの志望を尊重しながら進路相談を行い、大学・学部の選択や受験に向けての対応をしています。また、指定校推薦や一般推薦などによる他大学進学の道もあります。

2020年度指定校推薦依頼実績

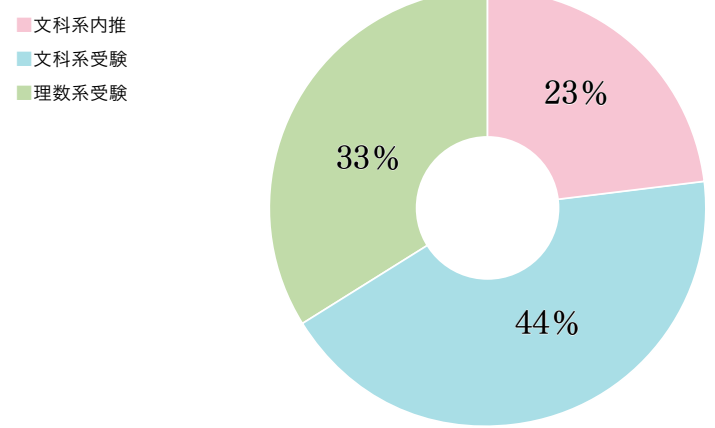
慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、立教大学、東京理科大学、中央大学、国際基督教大学、北里大学(医)、聖マリアンナ医科大学、獨協医科大学など

成蹊大学への内部推薦制度

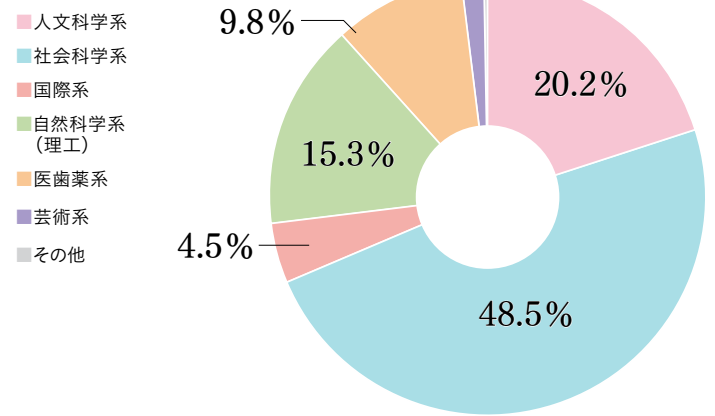
近年、約30%の生徒が成蹊大学へ内部推薦を希望し進学しています。内部進学のためには、一定の条件を満たす必要があります。3年間の成績と出席状況が良好であることが条件です。高校生活にきちんと取り組んでいれば条件をクリアすることは難しくありません。また成績上位者には、内部推薦の資格を持ちながら外部大学の受験が可能な**内推併願制度**もあります。



2020年度高3生の文理別割合



2021年度入試進学先系統別



2021年度入試 大学合格実績 2021年3月31日付

国公立

東京大学	2
東京外国語大学	2
東京農工大学	2
東北大学	1
東京工業大学	1
筑波大学(医学部)	1
東京藝術大学	1
東京海洋大学	1
浜松医科大学	1
電気通信大学	2
ほか	

私立

上智大学	33
早稲田大学	33
明治大学	32
中央大学	27
立教大学	24
青山学院大学	23
慶應義塾大学(医学部含む)	22
東京理科大学	13
法政大学	11
成蹊大学(内部推薦併願含む)	96
ほか	

医学部医学系

杏林大学	5
帝京大学	4
北里大学	4
東京慈恵医科大学	3
聖マリアンナ医科大学	1
東京医科大学・日本大学・獨協医科大学	
ほか	
合計	31

歯/薬/医療/獣医系

北里大学(薬/獣医/医療)	3
東京薬科大学	3
麻布大学(獣医)	2
順天堂大学	2
聖路加国際大学	2
日本獣医生命科学大学(獣医)	2
東京歯科大学・日本大学(歯)	
ほか	
合計	50

国際教養系

早稲田大学(国際教養)	6
国際基督教大学	4
上智大学(国際教養)	1
立命館アジア太平洋大学	1
青山学院大学(国際政経)	1
千葉大学(国際教養)	1
ほか	

こちらでも
ご紹介

↓

進学
ガイド

Web

いきいきとした成長を彩る、成蹊での1年間

中学・高校の6年間の大きな流れに、数多くの学校行事が節目をつくります。
四季とともに鮮やかに彩られる学校生活。生徒の心と身体は「体験」を通して大きく成長します。



5 9
体育祭・体育大会
中学の体育祭は9月に、高校の体育大会は5月と9月に開催。学年を超えてクラス対抗で競い合い、大いに楽しめます。企画や運営は生徒たちが主体となって行い、自立と自律の精神を学んでいます。



4 入学式



7 夏の学校

本物に触れながら「自分で考える力」を身につけていく体験学習の中でも、特に大自然に親しむことができる夏の学校。自然観察や仲間づくりを行います。



夏の学校での山登り。足が棒になるほど歩いたのを覚えています。今は付添医師として参加していますが、子どもたちを見ると当時の自分と重なり、何だか嬉しくなります。

宮本 篤さん(小～高1994年卒)
東京慈恵会医科大学医学部医学科卒
呼吸器内科医師

7 8 12 3 学習旅行

高校で行う学習旅行は、一般的な修学旅行とは違います。生徒と教員が一緒に企画し、少人数・希望者参加の形で実施します。夏休みや冬休みに、海外も含めて合計8つほどのコースを設定。貴重な体験を通じて誰もが大きく成長していきます。



10 蹊祭(文化祭)

毎年秋に開催している文化祭。自主性を育むために、生徒自身が企画して運営します。準備段階から本番まで協力し合い、手づくりのイベントを成功させることで、大きな達成感を得ています。



北海道



島根(海士町)



シンガポール



3 合唱祭

中学の学年最後にクラスで団結して練習します。歌い終わると感動で涙を流す生徒もいます。



5 修学旅行

成蹊が重視している体験学習のひとつとして、中3の5月に実施します。4泊5日の日程で京都・奈良に行き、いろいろな教科で事前に学習した内容を実際に体験。本物に触れることで、知的好奇心を高めます。

若さが 集い育まれる、 成蹊の宇^{いえ}

豊かな自然に恵まれた広大なキャンパス、より高い学習効果を支える近代的な施設、そして心身を育むクラブ活動。
成蹊という大きなひさしに守られて、生徒たちはのびのびと、そしていきいきと、かけがえのない6年間を過ごします。



放課後を有意義に使い、心身を鍛錬。日々の努力やチームワークを学び、リーダーシップや友情を育みます。
充実した設備で活動し、大会にも積極的に参加しています。

中 中学校 高 高等学校

運動部

剣道部 中 高

柔道部 高

水泳部 中 高

バドミントン部 高

バレーボール部 中・女 高

硬式テニス部 中 高

サイクリング部 高

サッカー部 中 高

山岳部 中 高

スキー部 高

ソフトテニス部 中 高

卓球部 中 高

バスケットボール部 中 高

野球部 中 高

ラグビー部 中 高

陸上競技部 中 高

文化部

イラスト漫画部 中

コーラス部 中 高

自然科学部 中

ストリングス部 中 高

文芸部 高

料理部 高

英語部 中 高

演劇部 中 高

科学技術部 中

家庭部 中

社会探検部 中

写真部 中 高

書道部 中 高

吹奏楽部 中 高

ダンス部 中 高

鉄道文化研究部 高

天文気象部 高

美術部 中 高

生徒会の活動

自治活動の拠点、生徒会が活躍しています。

生徒の自発的な活動の中心となっているのが生徒会です。生徒が学校に愛着心を持って取り組み、協力する活動の場として大きな役割を担っています。東北支援のほか、社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

中学生徒会
ペットボトルキャップを収集するチャリティ活動

高校生徒会
朝の樺並木で登校する生徒や近隣住民へのあいさつ運動

宮古市(岩手県)での支援ボランティア

週1回、自主運営する朝礼で、「成蹊放送」をテレビ中継

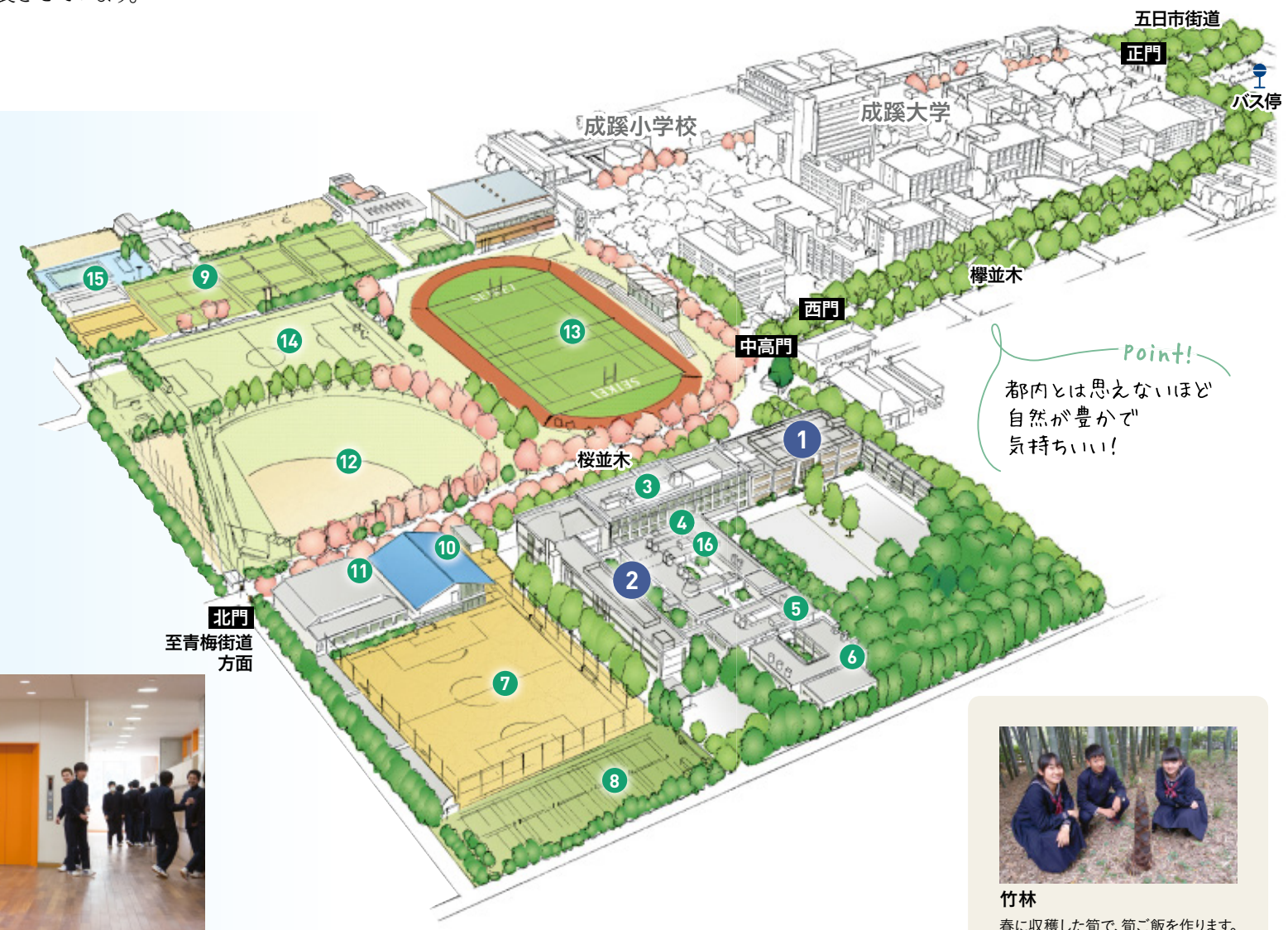
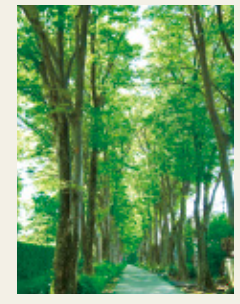
※一部のクラブを除いて活動は中学・高校別々に行います。

夢を育む器になる、ゆとりのキャンパス

多彩な体育施設、高度な機器を備えた理科館や造形館、図書室のある中央館。
恵まれた学習環境の中で、生徒一人ひとりがのびやかに成長し、
それぞれの個性を育みます。
本校では、中学および高校のホームルーム棟の再開発や周辺環境の整備により、
より一層豊かな学びのための“成蹊の字”を発展させています。

櫟並木

学園正門から中高門まで続く並木道で、四季折々の表情が楽しめます。この櫟並木は現在、武蔵野市の天然記念物に指定されているほか、「新東京百景」や「残したい日本の音風景100選」にも選ばれています。



① 中学ホームルーム棟

床など建物の多くに木材を使用した温かみのある校舎です。



中学生徒ホール

中学生の憩いの場。また、多目的に利用できるホール。昼食時にはお弁当を持ち寄って食事をしたり、放課後には仲間と勉強をしたり、おしゃべりをしたり、生徒が自由に過ごせるスペースです。



フリースペース 2～4階各フロアの中央にあり、1学年が集まれる広さ。同じ学年の生徒同士でお互いの顔が見える、コミュニケーションを図るスペースです。



ホームルーム教室

十分な広さが確保された各教室で視聴覚教材を用いながら授業が行われます。



分割教室

学習経験別に分けて行う英語の授業などに利用される教室。教育の特色でもある多様な授業形態に対応した設備です。

- ① 中学ホームルーム棟
- ② 高校ホームルーム棟
- ③ 中高中央館
- ④ 理科館
- ⑤ 造形館
- ⑥ 特別教室棟
- ⑦ 中高グラウンド
- ⑧ 中高テニスコート
- ⑨ テニスコート

- ⑩ 中高第1体育館
- ⑪ 中高第2体育館
- ⑫ 野球場
- ⑬ けやきグラウンド
(400m競技場・ラグビー場)
- ⑭ サッカー場&
ハンドボールコート
- ⑮ 北プール
- ⑯ 気象観測所

※⑨、⑫、⑬、⑭、⑮は学園共用施設です。

② 高校ホームルーム棟

進路指導や個人面談のためのスペースも充実した機能性あふれる校舎です。



進路指導室

大学入試や模擬テストなどに関する資料が取り揃えられており、また、進路指導や個人面談のためのスペースも充実しています。生徒の個性に応じたきめ細かな進路指導体制を支えるスペースです。



フリースペース

ガラスが多く使用され、明るく開放感にあふれたコミュニケーションスペースです。



ホームルーム教室

各教室には、大型ディスプレイやパソコン設備が整っており、視聴覚教材を用いながら授業が行われます。



合同教室

2クラス合同の授業などで使用される教室です。このほかに少人数で行う授業に対応した分割教室もあり、本校の特色である多様な授業形態を支えています。

Point!
本格的なグラウンドが自慢!



⑫ 野球場

両翼90m、中堅115mの球場で、外野には鮮やかな緑の芝が生えています。中高・大学の野球部が使用しています。



⑧ 中高テニスコート

中高専用のテニスコートは、全部で5面。人工芝なので天候に左右されることなく、ボールを追うことができます。



⑬ けやきグラウンド

ラグビー場を兼ねた400mトラックは、授業やクラブ活動、試合などに使用されています。2009年に改修し、人工芝が敷き詰められ、新たに「けやきグラウンド」と命名されました。

③ 中高中央館

最新の教育機器を導入し、充実した教育環境を誇っており、図書室・高校食堂も完備しています。



高校食堂

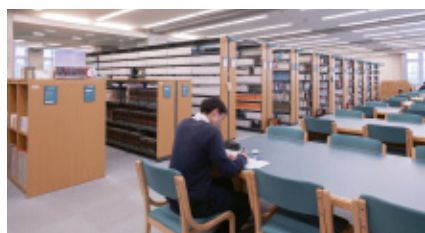
約300席の食堂です。明るい日差しが降り注ぎ、ゆったりとした食事の時間を楽しめるようになっています。メニューも多彩で、栄養バランスにも配慮しています。



point!

蔵書数が多い図書室

中央館4階の全フロアを占め、蔵書は約15万冊です。中学生、高校生それぞれの利用形態の違いに合わせて区域を分け、蔵書構成も変化をつけています。お互いの図書を利用することもできます。自宅で蔵書検索を行うことができ、また校内ではオンラインデータベースを利用できます。



高校図書室

落ち着いた雰囲気、調べ物だけでなく受験勉強のスペースとしても利用されています。留学生向けの図書、充実した映像資料などに特色があります。



コンピュータ教室

48席のコンピュータ教室が2室あり、それぞれに高性能パソコンを設置、これに教材提示用サブモニターを生徒2人に1台設置しています。高校の「情報」をはじめ多くの授業で活用されています。



中学図書室

温かい雰囲気、本好きの生徒がゆったりと過ごすことができます。2割を占める帰国生徒向けの英文書籍、『手塚治虫全集』をはじめとする良質なコミックの充実などに特色があります。

⑥ 特別教室棟

1学年全員が収容可能な大教室をはじめ、芸術・家庭科教育のための施設が充実しています。放課後はクラブ活動でも活用されています。



大教室

舞台と映写設備が付設した施設で、学年ごとのオリエンテーションや講演会、クラブ活動の発表会、日常の部活動などに利用されます。



音楽室

大型スクリーンを備えた大小2つの音楽室では、オペラ・オーケストラなどの映像作品鑑賞ができます。



調理室

9台の調理台および試食用のテーブルが設置されています。調理に関する本も充実しています。



書道室

半切作品を書くことができる大きめの机に、端溪硯・書架・墨床が備えられています。



高校1年のある一日



登校

8:10に登校。8:15にチャイムが鳴り、「凝念」で朝礼が始まります。



午前授業

1、2時限目の授業は教室で行われますが、3時限目の化学は④理科館に移動して授業を受けます。成蹊の理科は観察と実験を重視しており、設備の整った理科館で授業が行われます。4時限目は再び教室に戻り授業を受けます。



昼休み

教室でお弁当を開いたり、③中高中央館の高校食堂で食事をしたりします。食事が終わると、図書室で本を読んだり、外でバレーボールをしたりと過ごし方はさまざまです。



午後授業

5、6時限目は芸術の授業。美術・工芸は⑤造形館で、書道・音楽は⑥特別教室棟の教室で授業を受けます。



放課後

6時限目終了後、再び教室に集まり、終礼が済んでから、部活動あるいは下校となります。



④ 理科館

成蹊の伝統である「実験実習重視」を象徴する、理科教育のための施設。各科ごとの講義室や実験室を備え、屋上に天体ドームを設置しています。理科の授業はすべてこの理科館で行われます。



point!

本格的な実験や観察ができる



物理

実験室2室、講義室1室、準備室2室を備え、2名の実験助手の補助のもと豊富な実験実習を行っています。



生物

豊富な実験観察器具および生物標本を備えており、また、校内の豊かな自然が直接授業に利用されています。



化学

本格的な薬品庫を備え、数多くの実験・観察を中心とした授業を行っています。



地学

旧制高校から収集されている地学標本には貴重なものが多くあります。屋上の天体ドームにはコンピュータ制御の15cm屈折望遠鏡が設置されています。



⑤ 造形館

造形館では、生徒自ら意匠し、つくり出すことをテーマに授業が行われます。中学校の技術・美術、高校の美術・工芸デザインの授業に使われます。



技術室

金工や木工、製図など、中学の技術の授業の制作教室として使われています。自らの手でつくり出すことから、モノづくりの楽しさを学んでいきます。



美術室

油彩や日本画、各種版画制作など、美術のアトリエとして使われています。いろいろな素材を使った制作活動を通じて、自己表現力を身につけます。

制服について

中学

冬服



夏服



高校

冬服



夏服



男子

女子

中学、高校ともに男子は詰め襟、女子はセーラー服です。女子のリボンは、中学はえんじ色、高校は黒色となっています。中学には指定のセーターもあります。

〈受験生と保護者の皆さまへ〉

保護者からのメッセージ



充実した環境で過ごす時間、
多くの方々との絆は、
生涯の財産です。

川口 玲奈さん
父母と教師の会 (PTA)

成蹊は、自然豊かな武蔵野の地に広大なキャンパスと充実した設備を持つ恵まれた環境にあります。
生徒たちは、先生方やさまざまな方々のサポートのもと、勉強や部活動、校内外の行事を通じて互いを認め合いながら尊重し、力を合わせることで日々伸びやかに学校生活を送っています。そして、その中で培われる人と人との絆、人格の育成こそが大きな魅力です。
中学時より大学のゼミを受講できる中3ゼミやワークショップでは、成蹊ならではの「本物に触れる授業」を通じて幅広い教養を身につけ、さまざまな刺激を受けることができます。また、多方面で活躍する卒業生による進路・進学についてのアドバイスは、目標を実現していくための心強いサポートになっています。さらに、充実した留学制度は独自の多彩なプログラムを持っており、生徒たちにはさまざまな選択肢が用意されています。このような環境の中で同じ時間を過ごした同級生、先輩、後輩、先生方との絆は、生涯のかけがえのない財産になると信じています。
成蹊は100年を超える歴史と伝統を持つ学園です。娘が成蹊の一員として、ここでめぐり合えた仲間とともに、どんなときでも協力し、助け合い、成長しながら毎日楽しく学校生活を送っていることを親としてとても嬉しく思います。

在校生からのメッセージ



本物に触れ、
自ら行動する力を育む

高山 由莉さん
2021年度 中学3年

成蹊の授業では、さまざまな体験を通じて本物に触れ、物事を理解することができます。授業以外にも、卒業生や講師のお話を聞く機会や、豊富な留学プログラムなどがあり、このような充実したカリキュラムを通じて想像力や決断力、能動的に物事に取り組む力を育むことができます。また成蹊のキャンパスは自然豊かで心地よく、景色も素敵。私は、部活や勉強を中心に充実した中学校生活を送っています。



個性を伸ばし、
多様性を認め合う成蹊

藤井 祐さん
2021年度 高校3年

成蹊は留学プログラムが多く、また、ユネスコスクールとしても積極的に活動している点が魅力です。私は高校から入学しましたが、英国留学は素晴らしい経験になりました。副実行委員長を務めた蹊祭は、一部オンライン開催という初の試みでしたが、成蹊には自分たちの提案を受け入れてくれる柔軟性があります。多様性を認め合う校風、温かい先生方のフォローで多くの友人ができ、勉強や部活などとても充実しています。

活躍する卒業生たち

政治・行政

安倍 晋三	小～大・法1977卒	元内閣総理大臣
有馬 龍夫	中1950卒～留学	公益財団法人中東調査会特別顧問
古屋 圭司	高～大・経1976卒	衆議院議員

法 曹

梶谷 玄	中～高1953卒	元最高裁判所判事
梶谷 剛	中～大・政経1959卒	元日本弁護士連合会会長
本林 徹	小～高1956卒	元日本弁護士連合会会長

経 済

石坂 信也	中～大・経1990卒	株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン代表取締役社長
上原 明	小～高1960卒	大正製薬ホールディングス株式会社代表取締役社長
相賀 昌宏	中～大・法1973卒	株式会社小学館代表取締役社長
岡 豊	小～大・工機1971卒	太陽石油株式会社代表取締役社長
草間 高志	高～大・法1971卒	みずほ証券株式会社常任顧問
後藤 高志	中～高1967卒	株式会社西武ホールディングス代表取締役社長
白山 進	大・経1971卒	元西武鉄道株式会社代表取締役社長
佐々木 元	中～高1955卒	日本電気株式会社 (NEC) 特別顧問
塩澤 太郎	中～高1967卒	養命酒製造株式会社代表取締役社長
関野 和夫	旧制高校1950卒	元三菱自動車工業株式会社副社長
谷 正紀	高～大・工機1966卒	元三菱自動車工業株式会社副社長、元成蹊中学・高等学校校長
天坊 昭彦	小～高1958卒	出光興産株式会社顧問

播野 勤	中～大・経1976卒	タマノイ酢株式会社代表取締役社長
古川 紘一	中～大・政経1965卒	森永乳業株式会社顧問

学術・芸術

入江 昭	高1953卒	ハーバード大学名誉教授
黒川 清	中～高1955卒	元内閣特別顧問、元日本学術会議会長、東京大学名誉教授

西原 春夫	小～旧制高校1948卒	元早稲田大学総長、一般財団法人アジア平和貢献センター理事長
-------	-------------	-------------------------------

坂 茂	小～高1976卒	建築家
すぎやま こういち	高1951卒	作曲家
本多 俊之	中～大・経1981卒	作曲家、サクソ奏者
市原 ひかり	小～高2001卒	ジャズトランペット奏者
杵屋 淨貢	小～大・政経1960卒	長唄杵巳流家元、重要無形文化財 (人間国宝) 認定

東儀 秀樹	中～高1979卒	音楽家 (雅楽師)、俳優
水原 亜矢子	中～大1984卒	俳人

芸能・マスコミ 等

高島 彩	小～大・法2001卒	フリーアナウンサー
手塚 眞	小～高1980卒	ヴィジュアルリスト
馬場 康夫	小～大・工経1977卒	株式会社ホイチョイ・プロダクション代表取締役社長、映画監督

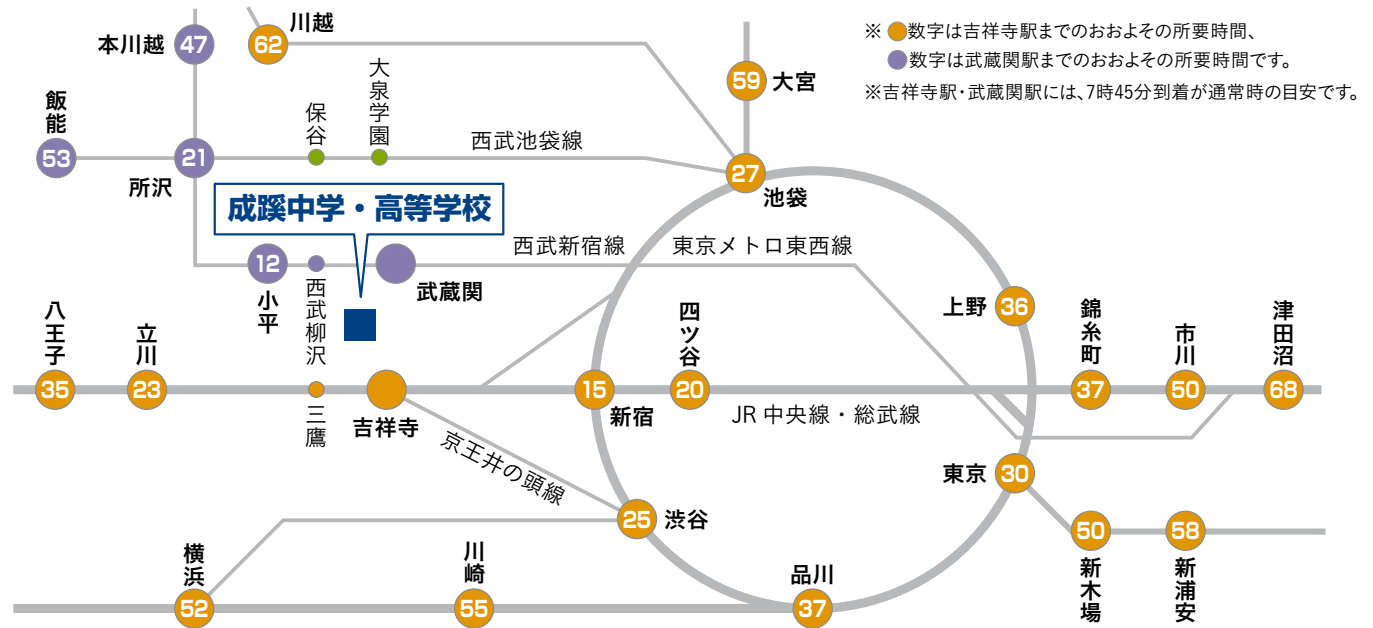
鶴見 辰吾	中～大・法1991卒	俳優
中井 貴一	中～大・経1984卒	俳優
山本 學	小～高1955卒	俳優

(2021年3月現在)

Information

学校へのアクセス

西武池袋線	
保 谷 駅 吉祥寺駅行 (西武バスー吉63) 「慈雲堂前」下車、バス停より徒歩10分 吉祥寺駅行 (西武バスー吉66) 「武蔵野第四小学校」下車、バス停より徒歩10分	大泉学園駅 吉祥寺駅行 (西武バス) 「武蔵野第四小学校」下車、バス停より徒歩10分
西武新宿線	
西武柳沢駅 吉祥寺駅行 (関東バス) 「成蹊学園前」下車、バス停より徒歩8分	武蔵関駅 三鷹駅行 (関東バスー鷹02) 「緑町住宅」下車、バス停より徒歩10分 南口下車、徒歩20分
JR中央線・総武線	
三 鷹 駅 北裏、武蔵関駅、田無橋場、柳沢駅行 (関東バスー鷹01・02・03、吉40) 「緑町住宅」下車、バス停より徒歩10分	吉祥寺駅 (北口1、2番乗場より関東バス) ※すべてのバスが停車します。 「成蹊学園前」下車、バス停より徒歩8分 ※バスは時間帯によっては本数の少ない場合がありますので、お確かめの上ご利用ください。



成蹊中学・高等学校の
ホームページはこちらをご覧ください。
<https://www.seikei.ac.jp/jsh/>

